



## 子どもをネット危機から守るスマホ・ネット講座 第1回

# 親が知らない間に子どもはネットで他人とつながっている

### はじめに

今や、小学生の4割ほどが携帯電話(スマートフォン含む)を所持するまでになり、子どもたちにとってインターネットは切っても切れない存在となっています。

そこで今回からシリーズとして、子どもをネット危機から守るスマホ・ネット講座と題したコラムを掲載していきます。特にお子さんのいるご家庭では、インターネット上での無用なトラブルに巻き込まれないためにも、是非読んでいただきたいと思います。

### ゲーム機でネットに接続

e-ネットキャラバン<sup>1</sup>のために、ある小学校を訪れました。体育館に5、6年生がきちんと並んで座り、その後ろには保護者の皆さんが大勢おみえになられています。

講座の冒頭、子どもたちに「おうちでインターネットをしている人」と質問をすると、ほぼ全員が手を挙げます。

「では、何でインターネットにつないでいますか」と言うと、「ママのスマホ!」と、元気な声があがります。

でも、「ママのスマホでインターネットを見ている人」と質問しても、3分の1も手が挙がりません。

「じゃあ、みんなは何でインターネットにつないでいるのかな」と聞くと、人気のゲーム機を示す声があちこちからあがります。



<sup>1</sup> e-ネットキャラバン…判断力等の不十分な子どもをインターネットのトラブルから守ることを目的に、保護者・教職員等を主な対象とした「e-ネット安心講座」の講師派遣を行っている。(総務省・文部科学省が運営参画)

そこで、「ゲーム機でインターネットにつないだことがある人」と聞くと、「ハイ!」と、ほとんど全員が元気よく手を挙げます。ここで保護者席がざわつきます。「えっ?、ゲーム機って、インターネットにつながるの??」

### ゲームの世界で知らない人と...

インターネットとつながるのは、パソコンやスマートフォンだけではなくありません。大半の子どもたちが持っているゲーム機だけでなく、携帯音楽プレイヤーなどもインターネットにつながります。

子どもたちに聞くと、ゲーム機をインターネットに接続する方法、それも自宅のWi-Fiだけでなく、ファーストフード店などでどのように操作すればよいのか、良く知っていますし、「こんなサイト見たよ」とか、「こんなことが出来たよ」と、得意になって話してくれます。その中で、知らない人とやりとりをしている小学生も少なくありません。



最近のゲームは、知らない人と対戦したり協力したりするものも多いので、小さな頃からその環境に慣れている感じもします。

「みんなは、『うざい』とか『キモい』とか、そういう他人を傷つけるようなことは書かないよね」と聞いたら、「オレ、書いたことある」と、5年生が手を挙げました。

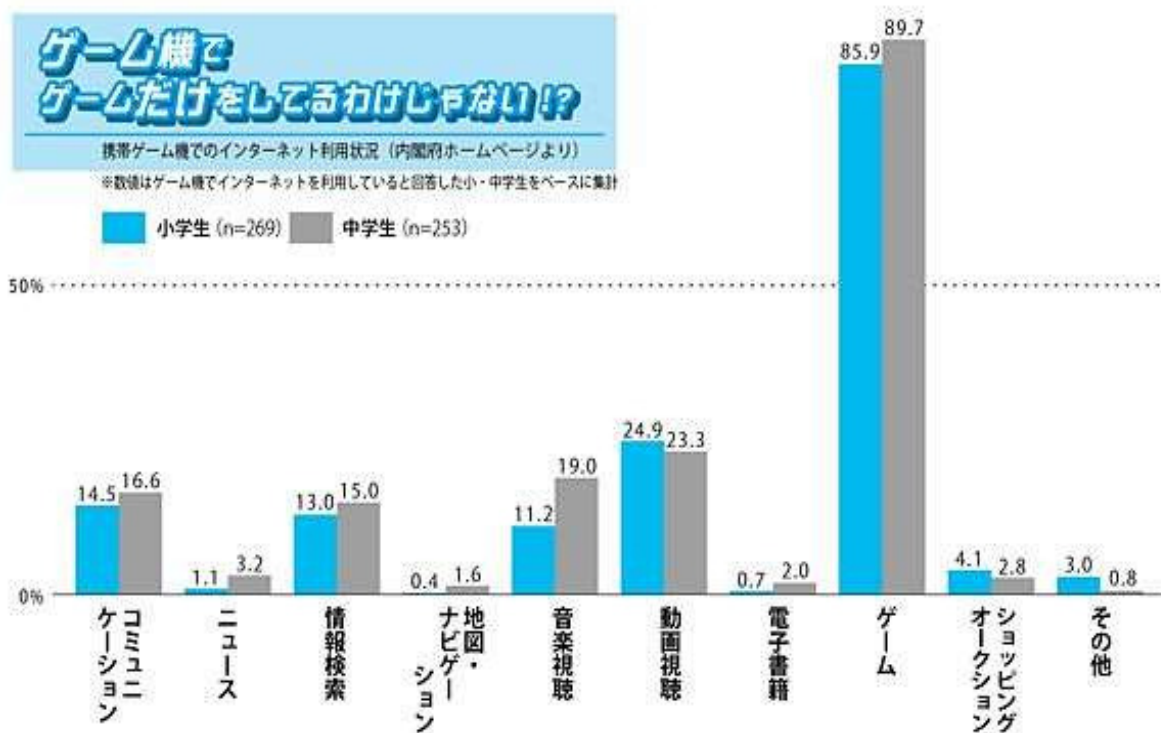
「友だちに書いたの?」

「ううん、知らない人」....

## 自分の子どもが知らない人とやりとりをしている

この現実を把握していない保護者の方も多いのではないかと、講座をしていて思います。

グラフ図：ゲーム機でゲームだけをしているわけじゃない！？携帯ゲーム機でのインターネット利用状況（内閣府ホームページより）



### 購入前に親も勉強を

一方で、子どもたちも、操作方法はすごく慣れていますが、リテラシーといえますか、判断をするための正確な知識が不足しており、軽い気持ちでクリックしてしまった、ということや、ちょっとふざけた情報を発信してしまったり、他の人を巻き込んで大変なことになってしまうという危険性が相当あると感じています。

では、子どもたちをネットから遠ざければよいのか。答えは **NO** でしょう。ネットを使いこなすことは、社会に出て必要となるスキルだと思うからです。

今のゲーム機は、パソコンに近いような極めて高い性能を有しています。このような玩具を子どもに買い与える場合には、まず、保護者が取扱説明書などをしっかりと読み、**何が出来るのか**をしっかりと把握しておくことが必要です。その中には、有害なサイトをブロックする設定方法なども載っています。

### 危険を察知する力を！

子どもがネット上で何をしているのか、ということ全てを把握するのは恐らく困難でしょう。そうすると、フィルタリングをかけることは大前提として、インターネットを使うことで迫ってくる危険、あるいは加害者になってしまう危険を、子どもたちが自分で

**1 考えて、2 判断して、3 回避する**ための知識を身につける必要があります。

子ども自身が**これはどうも怪しいとか、こういうことをすると危ない**と思うための知識を、保護者がまず知って、それを子どもと話し合う必要があると感じています。

では、どのようなことを知っておけばよいのか。次回から、現在起きている事例をご紹介しながら、対応方法について考えていきたいと思います。



(このコラムは、一般社団法人静岡県出版文化会発行の月刊ファミリスに東海総合通信局職員が寄稿した原稿を一部修正して掲載しています。)

出典：総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/mymedia/27/0824.html>

上記ページを元に磐田市情報政策課がレイアウト編集

